



BAIEIDO-TSUSHIN

梅栄堂通信

Vol.50

'08新春号

新たな年には、新たな願いを込めて……

名香

開運香

気品溢れる名香として、皆様にご愛用いただいております
梅栄堂の「開運香」は、天然の沈香をはじめ、
厳選された天然香料のみを使用した高級線香でございます。
その落ち着いた香りと、凛とした漂いは、
新しい春を迎えるにふさわしいもの。より良い一年を
願いを込めて「開運香」をお届けします。



●標準小売価格 3,150円 (本体価格 3,000円)



創業三百有余年

梅栄堂

〒590-0943 堺市堺区車之町東1丁1番4号
TEL 072(229)4545(代) FAX 072(227)1672
ホームページURL <http://www.baieido.co.jp>



四季彩々

春いちばんの香りを求めて

大阪城公園梅林

豊臣秀吉が築城し、大坂冬の陣・夏の陣の舞台となった大阪城。その大阪城を中心広がる広大な緑地帯が大阪城公園です。公園内の一角にある梅林は約百品種、千二百本以上の梅の木を有し、品種の豊富さでは西日本随一の規模。

一九七四年の開園と比較的新しいものですが、毎年、移植と補植を繰り返して、現在では大阪を代表する「梅の名所」となりました。

新しい年を迎える頃から咲き始める緋梅を皮切りに、一月の下旬には冬至梅などが見ごろとなり、その後は豊後梅、八重揚羽などの遅咲き種が咲く三月の半ばまで、次々と色、姿を変えた梅の花が楽しめるこの梅林は、春を待ちかねた市民の憩いの場となっています。園内は歩くのには手頃な広さ。その中に多品種の梅が、色合い、開花時期なども考慮に入れて配置されています。咲きそろった頃の景観はもちろん見事ですが、園内そこかしこに漂っている梅の芳香にも、春の訪れを感じることができます。また、大阪城公園の敷地内には、大阪城ホール、多目的グラウンドの太陽の広場、野外音楽堂、ラグビー・サッカーグラウンドなどの設備も豊富。週末にはアマチュアバンドなどのス



アクセス 地下鉄 谷町線/天満橋、谷町四丁目駅下車 中央線/森ノ宮、谷町四丁目駅下車 JR環状線/森ノ宮、大阪城公園駅下車 1月~3月 入場料無料 休園なし 東部方面公園事務所 06(6941)1144



謹賀新年

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

梅栄堂社長 中田 信浩



約一年と短命だった安部内閣の後をついで福田内閣が昨年九月に誕生。年金問題をはじめ内外ともに多くの課題を残したまま、二〇〇八年がスタートいたしました。我が国の経済も過去五年間ずっと二%前後の成長率で、後退もしない代わりにも前進もままならない状態が続いておりますが、評論家によればこれは歴史的には大変珍しいことなのだそうです。遠慮せずにどんどん前に進んでいただくと有り難いのですが、我が社といたしましては、昨年は梅栄堂三五〇周年の節目を迎え、記念商品発売のほか、キャンペーン等ご

好評をいただき、無事終了することができました。また、一九八九年以来お届けさせていたいただいておりましたこの小冊誌「梅栄堂通信」を一冊にまとめた「特集号」を発刊させていただきますました。是非、ご覧いただきますようご案内申し上げます。振り返って考えますところ、三五〇年という長い間、梅栄堂は「本物の香り」を大切にしたいという願いから、ずっと天然香料を使ったお線香づくりにこだわって参りました。この考えはこれからも同様に続けて参るつもりでございます。そのためにもお客様にはもって「本物の香り

すばらしさ」をわかりやすく、親切に伝えていかなければならないと日々考えておりましたが、この考えをお線香に反映するために、今後、商品一点一点をいま一度見直して参りたいと存じます。パッケージ等の、商品イメージの見直しもその一つですが、とりわけ「香りの配合」を、熟考したいと考えております。天然香料の使用は変わらず、「微妙な配合」を駆使して、お客様に納得していただける香りのお線香をお届けできるよう、一歩一歩ではございますが、精進してまいりますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。



PROFILE

奥慶一 (おくけいち)

作曲家

洗足学園音楽大学音楽学部 客員教授

東京芸術大学音楽学部作曲科卒業

http://www.st-ora.com/



香り KAORI ZUISOU
随想

山寺幻想

奥慶一

それは暑い夏も半ばを過ぎたある日の出来事であった。一人の男が山寺の参道へ向かって歩いて来た。

彼の名前は宇多祐介。普段は東京で会社に勤めているが、今は夏休みで滋賀の実家に帰省しているのである。

山あいのこのお寺は永源寺と言い、愛知川の源流に近い臨濟宗永源寺派の総本山である。鎌倉時代、寂室元光和尚によって建立されたと伝えられている。

宇多祐介が小学校の頃、全クラスでここに来てキャンプをしたことがある。今回は帰省中の暇つぶしに立ち寄ったのであった。木々の緑が目につく。平日の午後で、暑いせいか人の気配もない。

その時、山の方から吹いてくる風が汗ばんだ祐介の頬をなでていった。

最初に現れた二人の兵士は浅井長政に仕えていた兵であらう。浅井・朝倉氏対織田・徳川軍の戦いの時、姉川か小谷城で命を落としたものと思われる。祐介はこれは夢に違いないと思ったが、もう少し醒めずにこの人物達と共に時間を過ごしたいと思った。

藤吉郎と呼ばれた男は信長に再会の喜びを伝え、信長亡き後の自分の苦勞話を語り始めた。浅井の兵士兄弟はじつとその話を聞いている。ふと気がつく、彼らを取り巻くように大勢の負傷兵とおぼしき男達が時折折々めきながら会話を注目していた。涙をこぼしている者もいる。

その時太陽が雲に隠れ、にわかに一陣の風が起った。群衆がざわめく。「時が経ち人の世は変わりました、いずれの世にも人の心ほど変わ

ると同時に祐介はどこかで琵琶の音が鳴ったような気がした。どこからともなく大勢の人のざわめきと笑い声が聞こえるようでもある。視線を感じて道の左側を見ると、一人の男がこちらを見ている。その顔は痛みで歪んだまま石になってしまったような表情だが、薄ら笑いを浮かべているようでもある。よく見ると背中に矢が刺さっている。

祐介は「どうしました?」と声をかけた。男は「ああ、これか。」と背中を指さし、「これはもう、ええんじや。もう今は痛くないんじや。」と言った。すると、横にいた男が「義三郎は俺の弟じゃ。」と言った。その男は七福神の恵比寿大黒が瘦せたような人の良さそうな顔つきであった。

「おれは義一郎じゃ。」義三郎と呼ばれた男は「そうじゃ。浅井の殿様

りやすいものはございませぬなあ。」「わしの時は戦ばかりの世の中じゃったが、世の中に戦は消えてはおらぬ。戦は人の心の内にこそあるものよ。」信長が言った。「わしはもう行かねばならぬ。さらばじゃ。」馬の嘶きと共に、信長は蹄の音を残し京の方角へと消えていった。後を追うように「では、ご免致します。」

一言を残して男が林の中に消えていった。また一陣の風が起った。夏の日差しが戻り、祐介は吾に返った。何者かの視線を感じて傍の岩を見ると多数の石仏がこちらを見ているのであった。笑っている顔、気難しそうな顔、泣いたような顔もある。

坂の上の永源寺から涼しい風に乗って、微かなお香の香りが漂ってきた。見ると祐介の前に二匹の赤とんぼが飛んでいる。気がつく、石仏の

を奉ずる侍じゃ。」と言った。その時、後ろで甲高い笑い声がした。振り返ると馬にまたがり細面に髭を生やした男がこちらを見下ろしながらにやにやと笑っている。この顔には見覚えがある。「小谷の城攻めはのう?」と遠くを見ながらつぶやいた。

やにわに二人の侍の顔が曇り、「織田?」と顔を見合わせながらつぶやいている。「このあたりに来るのも久しぶりじゃ。」と馬から下りた男は言った。「ほんに:人の心は移ろい易いものじゃ。」信長とおぼしき男は言った。

その時、林の中から息をきらして走って来る者がいた。どこかで見覚えがあるような親しみやすい顔である。「上様、お久しぶりでございます。」

「おお、藤吉郎。」どうやら、後に羽柴秀吉と改名した木下藤吉郎らしい。

周囲にも沢山の赤とんぼが空中に止まったまま飛んでいるのであった。二匹の赤とんぼは祐介を案内するかのよう、寺の方へ飛んで行く。祐介は暗い参道の階段をお香の香りのする寺の方へとゆっくり登って行った。



拙い文章にお付き合い下さいましてありがとうございます。夏のある日、実際に私がした体験を基に脚色を加えてみました。ほのかな薫りというものはまことに奥ゆかしく、人の記憶を呼び覚ます効果があると思います。仕事の締め切りが近づくと心が焦り荒立って来ますが、お香を焚くと不思議とそれが静まるような気がいたします。そんなときには、家伝好文木を愛用させていただきます。薫りを聞くということ、ほのかな薫りをよしとする日本の伝統は、後生に伝えていきたいものであると思っております。

薫りを聞くということ、ほのかな薫りをよしとする日本の伝統は、後生に伝えていきたいものであると思っております。



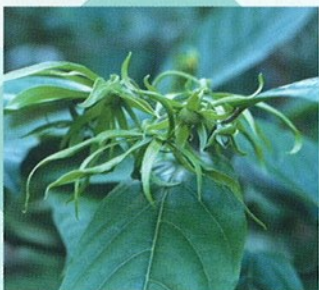
花の中の花

イランイラン



緊張を取り除き、
幸福感を与える作用があります。

イランイランは、タガログ語(現在のフィリピン語)のアランイランに語源をもつ言葉で、その意味は「花の中の花」。やさしい黄色の花は、南国の女性に愛され、よく髪飾りにも使われます。濃厚なフローラル調の香りを持つことから、香水の原料として、古くから珍重されてきました。原産地は東南アジアの熱帯雨林ですが、現在香料用の栽培は、インド洋のマダガスカル島やコモロ島で行われ、主な生産地となっています。イランイランはバンレイシ科の熱帯常緑の高木で、野生では十五〜三〇メートルになります。生産地では、花を採取しやすいように、二〜三メートルに剪定されています。イランイランには黄色、藤色、ピンクなどの花



色がありますが、香料として栽培されるのは黄色の種類。線形の花弁を持つ花は房状に垂れ下がって咲き、咲き始めは緑色で香りも弱いのですが、花色が黄色に変わる頃には、エキンチックで濃厚な香りを放ちます。

イランイランは一年中花が咲きますが、最盛期は五月と七月と十一月、十二月。成熟した花は、香りの強い明け方に摘み取られ、水蒸気蒸留で精油が採取されます。

フロラル系、ウッディ系、柑橘系など、ほとんどこの香りと調和するため、名だたる香水にも、イランイランの精油が効果的に使われています。また精油には、血圧を下げる作用、不安や緊張を取り除き、幸福感を与える作用があるため、アロマテラピーなどにも多用されています。

(今号の表紙)フクジュソウ

●話題

認証ブランド、堺技衆

堺市は平成十八年に政令指定都市になりましたが、堺の街には長い歴史に育まれた伝統産業や、最先端技術を有する企業まで、たくさんのおもしろい企業があります。これらの優れた企業に対して、堺商工会議所がそのすばらしさを認証したのが、堺ブランド「堺技衆」です。「伝統を守りながらも新しい香りに挑戦する」優秀企業として、この「堺技衆」に梅栄堂も認証されました。

「残香飛」残香飛ブラックが人気
毎日放送の「探検!九州。高田課長の街ぶら」は、出会いを求めているんな街を歩き、フレッシュな話題を楽しく伝える情報番組。第一回は、「夏

だ!祭りだ!戸畑」と題し、「祇園大山笠」の準備でにぎわう北九州市の戸畑地区を訪ね。祭りを前にして、街は華やかな雰囲気。そんな中、レポーター役の高田課長が戸畑駅前の中商店街で、「ご利益があると評判になっている観音様」を発見!その魅力に導かれて中に入ると、そこは仏具店(お仏壇のよーかどう)でした。さっそく目にとめたのが「残香飛」と「残香飛ブラック」。

「こっちは甘い!こっちは苦い!」とたいそうお気に入りでした。また、ニッポン放送R25系列の黒木瞳の「ホットGoing!」では、黒木瞳さん自らライフスタイルの変化によって誕生した新しい香りの商品をレポート

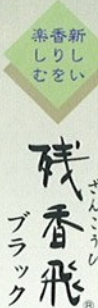
ト。「香り米」などとともに、話題の線香として「残香飛」シリーズが紹介されました。

梅栄堂通信「特集号」

梅栄堂通信は今号で五十号を迎え、これまでの内容を一つ

にまとめた「特集号」が発刊されました。是非ご覧ください。少しでも楽しい内容になるよう努力して参りますので、今後とも梅栄堂通信をどうぞよろしくお願いいたします。

●商品紹介



新しいアロマをお試し下さい。

「残香飛」を
ご愛顧いただき、ありがとうございます。

今回ご紹介させていただきます残香飛「ブラック」は豊かな香りはそのままに、ブラックコーヒーの「ほろ苦い香り」をプラスしたお線香です。

コーヒーには六百種類以上の香気成分が含まれ、右脳に働きかけて情緒を安定させるなど、数々の薬効が認められています。おくつろぎのひととき、残香飛「ブラック」で贅沢な時間をお過ごし下さい。

